

開会挨拶

上田：こんにちは、ちょうど時間になりました。だいぶ蒸し暑い季節になりましたが、皆さん熱心に来ていただき、感謝申し上げます。アジア地域研修所の所長の上田と申します。

さて、このシンポジウムなのですが、立教大学で私立大学の基盤形成ということで文科省から研究費を頂いて、南洋、南シナ海、インド洋という、海の広がりを考えていこうというようなプロジェクトを、昨年から来年度までの三年度計画で組んでいます。

最終的な目的としては、立教大学にある外邦図という戦前1940年代に作られた東南アジア、あるいは南洋と呼ばれている地域の地図を整理しつつ、この70年の間、空間的にどのような変化があったのか。あるいはその1960代以前の歴史的な経緯の中で景観がどのように変わってきて、人の動き、人の文化がどのように変わってきたのかを追っていくことです。このため、いろいろなシンポジウム・講演会を企画しています。

今日は沖縄との関係という形で、日本がかつて国同士として深く関わっていた南洋の島々と私たち日本人との関わりというものを考えていこうと思います。食の文化としてかつお節、そして音楽、そして芸能という、一見するとばらばらのテーマのように見えますが、人の流れ、つながりという点で、かつお節や芸能というものが深く関わっていたということも、このシンポジウムの中で見えてくればと思っています。

今回こういう企画を立てられ、またこの企画などについては、テープ起こしなどをして報告書などにまとめて、一つの成果として、対外的にも公表していこうと思っています。

